グループ名	男女共同さんかくの会　女性と防災グループ
開 催 日 時	平成 26 年 1 月 25 日（土）10:00～12:00
テ　ー　マ	楽しく学べる防災あれこれ クロスロードゲーム　パート 2
講　師　等	**アドバイザー　矢野　秋文さん** **松山市総合政策部　危機管理部長付　主幹**
参 加 人 数	合計　　22　名（女性　13 名，男性　9 名）
実行委員数	合計　　4　名（女性　 4 名，男性　0 名）

〈開催趣旨〉

発生が予想される南海トラフ大地震。被害想定の見直しから危機意識はあるものの防災・減災についての意識は薄い。そこで、災害弱者をテーマにクロスロードゲームを実施。災害の当事者として降りかかる問題に判断を下すという疑似体験をする。参加者は自分と異なる意見や価値観に気づき当事者としての思いを共有しつつ、災害時に予測される問題を事前にイメージし防災・減災の意識を高め災害へ備える機会とする。

〈内容〉

ふだんは何の支障もなく生活している私たちも、災害が発生すれば要援護者になる可能性は高い。災害弱者（災害時要援護者）についての説明後に、日常では小さな問題でも災害時には大きな問題に発展しそうな状況を題材としたクロスロードゲームを開始した。

参加者は 4 つのグループに分かれ、読み上げられる問題にイエスまたはノーと回答。少数派から意見や考えを述べてグループ内で話し合った後に、矢野さんから問題解決の基本的な考え方やポイントの解説を頂いて、6 問を終えた。その後、東日本大震災発生 2 か月後に現地支援に出向いた経験のある矢野さんより、南三陸町の当時の様子や防災対策庁舎から避難を呼びかけ続けた遠藤さんについての話が紹介された。

また中津さん（松山市 同課 防災システム担当）からは、市の備蓄状況の現状から、個々人での備蓄が必要との説明があり、参加者は会場に展示された備蓄品に見たり触れたりした。

最後に、石巻市立大川小学校の児童のご遺族が執筆した「ひまわりのおか」の絵本を紹介。

ご遺族から分けていただいた“ひまわりの種”を希望者にお持ち帰りいただいた。

クロスロードゲームの問題

出　題　(6 問)	ポ イ ン ト
隣家の高齢者の援助	・一人暮らしの老人は増加 ・自身の防災意識を高める ・事前の支援策の構築 ・見守りと顔の見えるおつきあい
絶縁状態の隣人の救出	・家屋の耐震診断、耐震補強 ・日ごろの近所付き合い ・避難時の約束事を地域で決める
幼児 2 人連れの避難方法	・避難の基本は徒歩 ・避難経路の安全確保は地域ぐるみで
避難所内での乳児の泣き声	・避難所内の仕切り、部屋の確保 ・女性リーダーの必要性 ・声をあげる勇気
引っ越してきたばかりで被災	・知らない土地で被災　・情報弱者 ・暗闇の避難は安全か
災害後、自宅のトイレを提供	・共助　・携帯トイレの個人備蓄 ・ルール決め

2011. 3. 11 石巻市立 大川小学校

クロスロードゲームの一例

Yes（続ける）

・自宅は危険なので帰らない
・部屋を確保してもらえるように運営者に相談、お願いして工夫する
・帰っても食べ物やおむつ受け取りに来るのは大変なので居る
・同じく赤ちゃん連れの方と一緒に、居場所の確保を願い出る
・気にしない
・説得しながらでもいる
・赤ちゃんを守ることが何より大事

問題

あなたは 母親

大地震後に生後３か月のベビーと避難所に駆け込み２日が経ちましたが赤ちゃんがよく泣きます。これまで理解のあった同室者から「赤ちゃんの泣き声はもううんざり」と言われました。自宅は半壊状態、外は冷たい雨が降っています。

避難所生活を続ける ？？

Yes（続ける）or No（帰宅する）

No（帰宅する）

・正直悩む。親の精神状態が子どもの安定につながる
・迷惑はかけない
・泣いて当たり前を思ってはいけない。何時間かかっても帰る。
　自分が楽
・非常事態なので
・母親のストレスが限界になっているので半壊の家に帰る

〈参加者の声〉

・クロスロードゲームは初めてでしたが、同じテーブルの方の意見や意思が見えてよかったです。同じ状況下でも、それぞれの視点で見ていかないといけないと改めて実感しました（30 代男性）
・非常に勉強になりました。考える機会をもらい、これからの生活に取り入れます。非常持ち出し袋等を確認しようと思います（30 代女性）
・クロスロードゲームで少数意見も大事に考えてもらっていろんな角度から防災について学ぶことができ有意義だった（40 代女性）
・昨年に続いて２回目の参加。今回のメンバーも多種多様な方々の為、非常に貴重な意見が聞けた。心残りなのはクロスロードの問題作成時のポイントをもう少し考えてほしいと思った（40 代男性）
・問題数を少なくしても、グループディスカッションの時間を長めに取って欲しい（60 代男性）
・自主防災会の活動のために具体的な内容。大変参考になりました（70 代男性）
・クロスロードゲームは本当に真剣に考えさせられました。特にトイレの問題。避難する立場になるばかり考えていましたが、この避難所に行かない周囲の立場がいかに難しいかよくわかりました。立場が変わると判断が変わりますね。借りる立場なら貸してほしいと思いますもの。災害時には感情的になるでしょうから余計にこじれますね。（50 代女性）
・松山市の取り組みも聞けてよかったです。来ていた方の意見が参考になりました（50 代女性）

〈まとめ〉

クロスロードゲームに正解はない。ゲーム自体はとても簡単だがその判断は難しい。どんな判断でもその人なりの理由がありどれも正しいからだ。今回のクロスロードゲームは災害弱者をテーマにした。どこにでもある身近な問題に話し合いはたいへん活発なものになった。参加者が 22 人ということもあり全員が自分の考えを述べて、皆それぞれの考えを時折うなずきながら聞いていた。

基本は自助。自分の命は自分で守って生き延びること。災害の規模が大きいほど公助は期待できない。そんな時こそ＜自分の意見を述べて話し合い、災害弱者の視点を大切に、互いを理解しつつ問題解決の糸口を見つける＞という共助の精神が必要だ。

本分科会のクロスロードゲームでは共助の考え方の基本を疑似体験することができた。万一の災害時にも今回培った共助の考えをもとに、十分に意見を交換し互いを理解して物事を解決に導いてもらいたい。

★ひまわり募金…寄せられた募金総額は、4305 円ご協力ありがとうございました。
石巻市立大川小学校の児童（24 人）の皆さんへ本を寄贈いたします。